

「やめる」が表す「一時停止動作」

— 対応する中国語表現と南の階層モデルを手掛かりに —

山田 祐也¹

要旨

本研究では、日本語の意図的な中止を表す「やめる」に対応する中国語表現と南の従属節の階層モデルを手掛かりに、「やめる」の意味機能について論じた。本研究は、「やめる」が、「行為を止めて、その行為の場から離れ去る」「対象の行為が以後実現しないようにする」「行為の中断（行為の再開可能性は含意しない）」という従来記述されている機能以外にも、事象の経過を一時的に停止させる「動作」である「一時停止動作」を表し、その「一時停止動作」は持続性（過程）を持ったものであることを論じた。そして、「やめる」という単一形式が「一時停止動作」から、一般的な中止を表す機能まで連続的に機能を分布させていることを指摘した。一方、中国語では、“不～了₂”によって事象の不成立への「変化」を表す中で、一般的な中止を表す「やめる」に対応する機能を成立させている。しかし、「一時停止動作」を表す際には、他の動作表現を用いる必要があることを明らかにした。本研究では、そのような日本語と中国語において、形式と意味機能の対応関係に異なる傾向が見られる要因は、木村（2014）が指摘している「慣習的な視点の取り方」の違い（「当事者現場立脚型視点」（日本語）vs.「傍観者俯瞰型視点」（中国語））が関係していることを主張した。

【キーワード】「やめる」・一時停止動作・“不～了₂”・南の階層モデル・類型設定型対照研究

1. はじめに

日本語の意図的な中止を表す形式には「（のを）やめる」があり、その意味機能として「それまで続けてきた行為・動作・状態などを終わりにする。」や「これからしようとしていたことを、しないことにする。とりやめる。中止する。」などの定義が明鏡国語辞典（第二版）でなされている。しかし、(1a)の「泳ぐのをやめて」が表す機能は、「それまで続けてきた泳ぐ行為・動作を終わりにする。」や「これから泳ごうとしていたが、泳がないことにする。とりやめる。中止する。」という定義ではうまく説明できない。また、日本語の「やめる」と一般的に対応する中国語表現に“不～了₂”があり（刘月华・潘文娛・故韡（相原（監訳））1996; 呂叔湘（牛島・菱沼（監訳））2003; 丸尾2010; 丸尾・李 2022など）、下の(2)では、「ピクニックに行くのをやめる」と“不去春游了”が対応していることがわかる。しかし、(1a)の対訳である(1b)では「泳ぐのをやめて」に“一旦停止游泳”という訳が対応し、当該箇所において“不游泳了”（“不～了₂”）を対訳として使用することはできない。^{(1) (2) (3)}

- (1) a. 私は頭の上をライトで照らしながら岩壁に沿って移動した。しかし横穴らしいものは見当らなかった。「本当に右の方でいいのかい？」と私は訊いた。泳ぐのをやめて水の中でじっとしていると水の冷たさが体の芯にまでひしひしと浸みこんでくるような気がした。

(『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』（筆者下線））

- b. 我把 手电筒 在 头上 照着 沿 岩壁 移动, 还是 没有 发现。

1 BA ライト LOC 頭上 照らす ASP 沿う 岩壁 移動 まだ NEG 発見

“真是 右边 不成?”我问。一旦 停止 游泳 (*不 游泳 了) 在 水中 静止
本当に 右側 よもや 1 聞く 一旦 停止 泳ぐ NEG 泳ぐ 語気 LOC 水中 静止
不 動, 便 觉得 冰凉 彻骨, 阵阵 生 寒,
NEG 動く すぐに 感じる 冷たい 骨身に染みる 次第に 生む 寒さ

(『世界尽头与冷酷仙境』（括弧内・下線・グロスは筆者））

¹ 立命館アジア太平洋大学 言語教育センター 嘱託講師

Email: yuyayamada2414@gmail.com

- (2) 天气预报 说 明天 有 雨, 我们 不 去 春游 了。

天気予報 言う 明日 有る 雨 1-PL NEG 行く ピクニック 語気

「天気予報ではあしたは雨が降るというので、私達はピクニックに行くのをやめた。」

(刘月华・潘文娛・故韓 (相原 (監訳)) 1996: 213 (下線・グロスは筆者))

本研究では、従来記述されている「やめる」の意味機能では十分に説明ができず、且つ“不～了₂”との対応関係に違いが見られる (1a) のような「やめる」の特徴に着目して議論を行っていく。本研究の構成は、以下の通りである。2章では、従来記述されている「やめる」の意味機能を概観する。その後、本研究が議論の手掛かりにする「やめる」に一般的に対応する中国語表現と南の従属節の階層モデルについて確認し、従来の研究の問題点を指摘する。3章では、中国語表現の対応関係と南モデルを手掛かりに、「やめる」の新たな意味機能について論じていく。4章では、本研究で新たに記述した「やめる」の機能が、中国語の“不～了₂”に対応せず、日本語と中国語において形式と意味機能の対応関係に異なる傾向が見られる要因について、個別言語話者による視点の取り方の観点から論じる。5章は結語である。

2. 先行研究

2-1 「やめる」の意味機能

本節では、森田 (1977)、山田 (1979)、杉本 (1986) による「やめる」の意味機能に関する議論を概観する。森田 (1977) は、「やめる」の機能を「終える (終わる)」の機能と対比しながら議論を行っている。森田 (1977) は、「終える」は「完了意識」を表すことから、下の (3a) のような半分食べかけで席を立つような場合においては、用いることができないと指摘している。一方、「やめる」は「終える」のような完了意識を表さないことから、(3b) のような状況においても、用いることができる。

- (3) a. *食事中に地震が起こったので、あわてて食事を終えて外に飛び出した。 (森田 1977: 386)
b. 食事中に地震が起こったので、あわてて食事をやめて (食べるのをやめて) 外に飛び出した。

さらに、森田 (1977: 386) は「やめる」は「続いていた行為を意志的に止める行為」を表し「行為を止めて、その行為の場から離れ去る意が伴う」と主張し、(4a) のような状況において、「やめる」は使用できるが「終える」は使用できないことを指摘している。一方で、(4b) のような無意志的な完了を表す場合において「終える」は使用できるが「やめる」は使用できないと指摘している。また、「やめる」は (5) のような出来事の実行以前に中止する「未然の実行中止」を表すが、このような用例では「終える」を使用できないと指摘している。

- (4) a. 会社を {やめる / *終える}。 (ibid: 386 (筆者一部改))
b. 長い一生を {*やめる / 終える}。 (ibid: 386 (筆者一部改))
(5) 父が退職したので、息子は大学へ行くのを {やめた / *終えた}。 (ibid: 386 (筆者一部改))

森田 (1977) は、「やめる」と「よす」が類似した機能を持つことを指摘しているが、具体的な議論はなされていない。一方、山田 (1979) は、「やめる」と「終える (終わる)」の機能の違いについて、森田 (1977) と概ね同様の記述をしているが、「やめる」の機能を「とめる」「よす」とも比較しながら議論している。以下では、山田 (1979) の議論を概観しながら、山田 (1979) の議論を批判的に検討している杉本 (1986) の分析も合わせて確認する。

まず、山田 (1979: 150) は「やめる」と「とめる」は「対象の行為が以後実現しないようにする」ことを表すと主張している。その上で、(6)、(7) のような「やめる」と「とめる」の機能の対比から、「とめる」

は(6)のように「他人の行為をとめる」ことを表す。対照的に、「やめる」は(7)のように「自分の行為をやめる」ことを表し、「やめる」の対象となる行為は動作主体が自発的に行えるものであることを指摘している。

- (6) a. 母は息子が行くのをとめた。 (山田 1979: 148)
 b.*母は息子が行くのをやめた。 (ibid: 148)
 (7) a.*母は自分が行くのをとめた。 (ibid: 148)
 b. 母は自分が行くのをやめた。 (ibid: 148)

また、山田(1979)は「やめる」と「とめる」の対象となる動作のアスペクトにも着目している。(8)のような「やめる」と「とめる」の対象となる動作が過程を持つ場合は、行為開始前(けんかをする前)、もしくは、行為開始後(けんかの最中)において以後の行為が実現しないようにすることの二義解釈が可能である。一方、(9)のような「やめる」「とめる」の対象となる動作が過程を持たない場合は、行為開始前に実現しないようにすることのみを表すと指摘している。

- (8) a. けんかをやめた(するのをやめた)。 (ibid: 150 (括弧内筆者))
 b. けんかをとめた(するのをとめた)。 (ibid: 150 (括弧内筆者))
 (9) a. 死ぬのをやめた。
 b. 死ぬのをとめた。

山田(1979)は「やめる」と「よす」の意味機能が極めて類似していることを指摘した上で、両者の違いをいくつか記述している。まず、山田(1979)は、(10a)と(10b)の対比から、「よす」は人間が主体の時にしか使えないと指摘している。また、「よす」は主体自らの行為を、実現しないほうがよいという考えに従って自発的に行うものであることから、強制的な力を受ける場合に用いることができないと指摘している。そして、主体自らが考えるには一定の時間がかかることから、(11)のような状況では、「よす」を用いることができないと指摘している。

- (10) a. 鳥が鳴くのをやめた。 (ibid: 151)
 b.*鳥が鳴くのをよした。 (ibid: 151 (筆者一部改))
 (11) Nといういつも無口な二等兵、彼は済南から現地応召してきた男だった。この男が驚いたことに私のハミングに合わせて口笛を吹いた。そして私に顔を見られていることに気付くとドキンとした表情で止めた(*よした)。私もそれで止めた(*よした)。 (『辻まことの世界』ibid: 151 (括弧内筆者))

しかし、(11)のような用例に対する山田(1979)の分析について、杉本(1986)は、(12)のような状況では「よす」が使えることを主張し、「よす」の使用には「主体自らが考える一定の時間」というよりは「事前の判断が必要」だと主張している。

- (12) 太郎は急に準備運動をよした。 (杉本 1986: 37)

杉本(1986)は、(13)と(14)における「やめる」と「よす」の使用状況の相違から、「やめる」は「行為の中断」(行為の再開可能性は含意しない(cf. 杉本(1986)注3))、「よす」は「行為の回避」を表すと主張している。具体的には、(13b)で「よす」が表しているのは、喫煙を中断することではなく、一回一回の行為の回避を表していることから、(14)のような習慣の中断を表す際には、(14b)「よす」を使うことができ

ない。一方、「やめる」は「行為の中断」を表すことから、(14a) のような習慣の中断も表すことができる。なお、「回避」とは現在行われている行為を中止するのではなく、これから行われる行為を中止することであるため、「やす」の使用において「事前の判断が必要」という (12) での杉本 (1986) の主張につながることになる。

- (13) a. 煙草を吸うのをやめている。 (ibid: 37)
b. 煙草を吸うのをよしている。 (ibid: 37)
(14) a. 煙草を吸うのをもうやめている。 (ibid: 38)
b. ??煙草を吸うのをもうよしている。 (ibid: 38)

以上で確認した森田 (1977)、山田 (1979)、杉本 (1986) で記述されている「やめる」の意味機能の特徴を以下の表 1 にまとめる。

表 1 「やめる」の意味機能の特徴まとめ

森田 (1977)	・完了意識を表さない ・続いていた行為を意志的に止める行為 ・行為を止めて、その行為の場から離れ去る意が伴う
山田 (1979)	・対象の行為が以後実現しないようにすることを表す ・「やめる」の対象となる行為は動作主体が自発的にできるもの ・対象となる動作が過程を持つ場合は、行為開始前、もしくは、行為開始後において以後の行為が実現しないようにすることの二義解釈が可能
杉本 (1986)	・行為の中断 (行為の再開可能性は含意しない)

以上のように、従来の研究では日本語の類語との比較対照を行いながら、「やめる」の意味機能に関する議論が進められてきた。一方、本研究では、中国語という異なる言語における表現との比較対照を手掛かりにしながら「やめる」の意味機能の記述を行う。これは、言語の対照研究を「他の言語と比べて考えることは、個別言語研究における問題発見の手段、あるいは個別言語について考える際の指針を得るための手段」(井上 2015: 4) と捉える研究スタイルによるものである。また、「一つの言語だけを見るよりは、複数の言語を比較対照した方がそれぞれの対象の特徴がより分析的にとらえられる (あるいは、それぞれの言語を支える一般的な原理や傾向性がより鮮明に浮かび上がる)」(井上 2002: 11) というメリットを生かして、本研究の結果などから明らかになった個別言語が持つ特徴・傾向性を将来的に言語教育分野 (教授法・教材開発など) へ応用することを目指すという本研究の副次的な目的によるものである。そこで、次節では「やめる」に一般的に対応すると考えられている中国語表現の“不～了₂”について確認しながら、“不～了₂”と対応しない「やめる」の意味機能においては、森田 (1977)、山田 (1979)、杉本 (1986) で記述されている意味機能では十分に説明ができないことを示す。

2-2 中止を表す“不～了₂”

日本語の「やめる」には、(15)～(17) のように、否定副詞の“不”と新たな事態の発生・状況の変化を表すとされる文末語気助詞“了₂”を組み合わせた“不～了₂”が、対応する中国語表現として一般的に考えられている (刘月华・潘文娛・故韓 (相原 (監訳)) 1996; 呂叔湘 (牛島・菱沼 (監訳)) 2003; 丸尾 2010; 丸尾・李 2022 など)。下の (16) では、中止の対象となる動作が過程を持つことから、(8a) で確認した「やめる」と同様に、行為開始前 (掃除前)、もしくは、行為開始後 (掃除の最中) に中止するという二義解釈が可能である。一方、(17) では、(9a) と同様に中止の対象となる動作が過程を持たないため、行為開始前の中止のみを表す。なお、(15) については、文脈的に行為開始前の中止の解釈のみができる。

(15) (=2)

天气预报 说 明天 有 雨, 我们 不 去 春游 了。

天気予報 言う 明日 有る 雨 1-PL NEG 行く ピクニック 語気

「天気予報ではあしたは雨が降るというので、私達はピクニックに行くのをやめた。」

(刘月华・潘文娛・故韡 (相原 (監訳)) 1996: 213 (下線・グロスは筆者))

(16) 林先生 不 做 扫除 了。

林-さん NEG する 掃除 語気

「林さんは掃除するのをやめました。」 (『新版中日交流标准日本語 初級』 (下線・グロスは筆者))

(17) 她 不 离婚 了。

3 NEG 離婚 語気

「彼女は離婚するのをやめた。」 (王 2012: 21 (訳・下線・グロスは筆者))

しかし、日本語の「やめる」と“不～了₂”の機能は、完全に対応しているわけではない。“不～了₂”は(18)のような動作主の意志を伴わない場合であっても、対象の事象が継続性を持つ場合(王 2012)には使用することができる。また、(19) 形容詞 (小) や (20) 助動詞 (能) を“不”と“了₂”の間に生起させ、否定的に事象の変化を表すこともできる(丸尾 2010)。

(18) 我 的 表 不 走 了。

1 GEN 時計 NEG 動く 語気

「私の時計が動かなくなった。」 (丸尾 2010: 107 (下線・グロスは筆者))

(19) 你 已经 不 小 了, 怎么 还 这么 不 懂事儿?

2 もう NEG 小さい 語気 どうして まだこんなに NEG 物分かり

「あなたはもう小さくないのに、どうしてこんなに物分かりが悪いの。」

(ibid: 107 (下線・グロスは筆者))

(20) 他 突然 有 事儿, 不 能 去 了。

3 突然 ある こと NEG できる 行く 語気

「彼は急に用ができて、行けなくなった。」 (ibid: 107 (下線・グロスは筆者))

以上のように、中国語では否定副詞の“不”と新たな事態の発生・状況の変化を表すとされる文末語気助詞“了₂”を組み合わせ、「もとの計画や傾向を変えたために新たな状況が生まれた」(呂叔湘(牛島・菱沼 (監訳) 2003: 244) や「～しないことにする; (もう) ～ではなくなる」(丸尾・李 2022: 169) という「変化」を表す中で、「やめる」に対応する機能を成立させている。しかし、(1)でも確認したように、(21a)の対訳である(21b)では、「泳ぐのをやめて」に“不～了₂” (“不游泳了”) は対訳として用いることができない。

(21) (=1)

a. 私は頭の上をライトで照らしながら岩壁に沿って移動した。しかし横穴らしいものは見当らなかった。「本当に右の方でいいのかい？」と私は訊いた。泳ぐのをやめて水の中でじっとしていると水の冷たさが体の芯にまでひしひしと浸みこんでくるような気がした。

(『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』 (筆者下線))

b. 我 把 手电筒 在 头上 照 着 沿 岩壁 移动, 还是 没有 发现。

1 BA ライト LOC 頭上 照らす ASP 沿う 岩壁 移動 まだ NEG 発見

“真是 右边 不成?” 我 问。一旦 停止 游泳 (*不 游泳 了) 在 水中 静止

本当に 右側 よもや 1 聞く 一旦 停止 泳ぐ NEG 泳ぐ 語気 LOC 水中 静止

不 動, 便 觉得 冰凉 彻骨, 阵阵 生 寒,
NEG 動く すぐに 感じる 冷たい 骨身に染みる 次第に 生む 寒さ
(『世界尽头与冷酷仙境』(括弧内・下線・グロスは筆者))

また、(21a) の文脈における「泳ぐのをやめて」は「泳ぐ行為を止めて、その行為の場から離れ去る」「対象の泳ぐ行為が以後実現しないようにする」「泳ぐ行為を中断する」という意味 (cf. 表 1) を表しておらず、「やめる」の意味機能について再検討する必要がある。(21a) のような複文中の用例を分析する際、日本語の複文の接続形式は単一形式が複数の機能を持つことが多く、実際の用例の中での意味機能を直観的に判断することが困難な場合が多くある (e.g. テ形接続が表す「付帯状況」vs. 「継起」(日本語記述文法研究会 2008))。そのような分析上の問題点を解決するために、次節では、客観的な制約に基づいて言語形式に見られる意味的な特徴の記述がなされている南 (1974, 1993) による従属節の階層モデルについて確認する。

2-3 南の従属節の階層モデル

南 (1974, 1993) は、日本語の従属節 (句) を A 類、B 類、C 類の三類に分類している。南は「テ形」「ナガラ形 (非逆接)」などが成す従属節が「主文で表わされる動作・状態などと平行して行われる副次的動作」を表す場合を A 類に分類している。さらに、南は「継起・並列的な動作・状態」「原因・理由」「条件」「逆接」などを表す「テ形」「ト・バ・タラ・ナラ形」「ノニ形」「テモ形」などが成す従属節を B 類に分類し、「ガ形」「カラ形」「ケレドモ形」などが成す従属節を C 類に分類している。南は、A ~ C の各タイプの節が他のタイプの節が表す意味の一部になり得るかどうかなという制約の観点から重要な分析をしている。先ず、A 類は他の A 類 (22a)、または B 類 (22b)、C 類 (22c) の従属節が表す意味の一部になることができる。

- (22) a. [[手をつないで]_(A) 歩きながら]_(A)、おしゃべりをしました。]
b. [[ガムを噛みながら]_(A) 走ると]_(B)、危ないですよ。]
c. [[かき混ぜながら]_(A) 煮ましたけれど]_(C)、うまく作れませんでした。]

次に、B 類は、他の B 類 (23a)、または C 類 (23b) の従属節が表す意味の一部になることができる。しかし、A 類従属節 (23c) が表す意味の一部にはなることができず、(23c) の B 類は A 類従属節「手をつないで」の一部ではなく、後続節全体と関わる関係を成している。

- (23) a. [[雨が降れば]_(B)、撮影会をとりやめますので]_(B)、注意してください。]
b. [[彼が「いいところだ」というので]_(B)、行ってみたけれど]_(C)、良くなかった。]
c. [[危ないところにさしかかったら]_(B)、[[手をつないで]_(A) 歩きましょう。]]

最後に、C 類は、他の C 類従属節 (24a) が表す意味の一部にしかなることができず、A 類 (24b)、B 類 (24c) の従属節が表す意味の一部になることはできない。(24b) では、C 類の「焦げるおそれがありますから」が、A 類従属節の一部ではなく、後続節全体と関わる関係を成している。同様に (24c) でも、C 類の「学校に行かなければならなかったけれど」が、B 類従属節の一部ではなく、後続節全体と関わる関係を成している。

- (24) a. [[会場は午後こむというから]_(C)、午前中に行ってみたけれど]_(C)、人は多かった。]
b. [[焦げるおそれがありますから]_(C)、[[かき混ぜながら]_(A) 炒めましょう。]]
c. [[学校に行かなければならなかったけれど]_(C)、[[まだ眠たかったので]_(B) もう少し寝ることにした。]]

南は、各タイプの従属節と他の文法成分の関係についても分析している。例えば、時間を表す修飾語は、

A類の一部になることはできず、(25a)において「3時に」は文全体を修飾している。一方、B類、C類では時間修飾語が従属節の一部になることができる。(25b)では、「3時に」がC類従属節のみを修飾しており、「その時」はB類従属節のみを修飾しているため「学校に行くこと」と「まだ眠たかったのもう少し寝ること」は同一の時間に起こる出来事ではないことがわかる。また、場所を表す修飾語においても、A類の一部になることはできず、(26a)では、「道で」が文全体を修飾している。一方、B類、C類では場所修飾語が従属節の一部になることができる。(26b)では、「学校で」がC類従属節のみを修飾しており、「そのカフェで」はB類従属節のみを修飾しており、「友達が「おいしい」ということ」と「コーヒーを飲むこと」は別の場所で起こる出来事であることがわかる。

- (25) a.[(3時に) [[[手をつないで]_(A) 歩きながら]_(A)、おしゃべりをしました。]]
 b.[[(3時に) 学校に行かなければならなかったけれど]_(C)、[[(その時) まだ眠たかったので]_(B) もう少し寝ことにした。]]
- (26) a.[(道で) [[[手をつないで]_(A) 歩きながら]_(A)、おしゃべりをしました。]]
 b.[[(学校で) 友達が「おいしい」といったけれど]_(C)、[[(そのカフェで) コーヒーを飲んでみると]_(B)、まあまあだった。]]

下の表2に、以上で確認した南の階層モデルで記述されている、各従属節タイプと従属節の意味の一部になることができる構成要素の制約についてまとめる。表2の○×は各従属節のタイプにおいて、当該の構成要素が意味の一部になることができるかの可(○)否(×)を表す。⁽⁴⁾

表2 従属節のタイプと構成要素間の制約まとめ

		従属節のタイプ		
		A類従属節	B類従属節	C類従属節
従属節の意味の一部になることができる構成要素	A類従属節	○	○	○
	B類従属節	×	○	○
	C類従属節	×	×	○
	時間修飾語	×	○	○
	場所修飾語	×	○	○

南の階層モデルで記述されている制約を基に従属節の階層タイプを明らかにすることで、直観では判断しにくい従属節が表している意味機能を絞り込むことができる。そして、その従属節を構成する動詞の意味特徴も客観的に議論することができるようになると考えられる。このことから、本研究では、次章において前節で確認した“不～了₂”の対応関係と南の階層モデルを手掛かりに「やめる」の意味機能を議論していく。

3. 「やめる」が表す一時停止動作

本章では、従来の森田(1977)、山田(1979)、杉本(1986)などで記述されてきた「やめる」の意味機能では説明ができない(1)、(21)で確認したような用例について議論していく。まず、既に確認している下の(27)では、(27a)「泳ぐのをやめて」に“不游泳了”(“不～了₂”)を対訳として当てることができず、“一旦停止游泳”のような対訳が自然となる。さらに、(28)においても(28a)「引きずるのをやめて」には(28b)“我们就要停下”のような中国語表現が対訳として自然であり、より直訳的な“我们就不拖了”(“不～了₂”)のような表現を用いた場合は非文となる。⁽⁵⁾

(27) (=1, 21)

- a. 私は頭の上をライトで照らしながら岩壁に沿って移動した。しかし横穴らしいものは見当らなかった。「本当に右の方でいいのかい？」と私は訊いた。泳ぐのをやめて水の中でじっとしていると水の冷たさが体の芯にまでひしひしと浸みこんでくるような気がした。

(『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』(筆者下線))

- b.我把手电筒在头上照着沿岩壁移动,还是没有发现。

1 BA ライト LOC 頭 上 照らす ASP 沿う 岩壁 移動 まだ NEG 発見

“真是 右 边 不 成？”我 问。一旦 停止 游泳（*不 游泳 了）在 水 中 静 止

本当に 右 側 よもや 1 聞く 一旦 停止 泳ぐ NEG 泳ぐ 語気 LOC 水 中 静止

不动,便觉得冰凉彻骨,阵阵生寒,

NEG 動く すぐに 感じる 冷たい 骨身に染みる 次第に 生む 寒さ

(『世界尽头与冷酷仙境』(括弧内・下線・グロスは筆者))

- (28) a. ぼくたちはそれをずるずる引きずって、また長い道中をひっ返しはじめます。五、六メートル行っては引きずるのをやめて腰をおろし、ハアハアと肩で息をします。 (『クリスマスの思い出』(筆者下線))

- b. 像 拖 着 猎物 一样, 我们 开始 往 回 走, 路 好 长 啊。 每
 まるで 引きずる ASP 獲物 同じ 1-PL 開始 DIR 戻る 歩く 道 とても 長い 語気 毎
 走 几 码 长 的 路, 我们 就 要 停下 (*我们 就 不 拖
 歩く いくつ ヤード 長さ GEN 道 1-PL ADV 必要 停止 1-PL ADV NEG 引きずる
 了), 坐 一会儿 歇口气。

(『一个圣诞节的回忆』(括弧内・下線・グロスは筆者))

(27)、(28)のような「やめる」と“不～了₂”の非対応が起こる要因に対する本研究の結論を先に述べると、日本語の「やめる」は2-1節で確認したような「行為を止めて、その行為の場から離れ去る」「対象の行為が以後実現しないようにする」「行為の中断」のような機能以外に、事象の経過を一時的に停止させる「動作」である「一時停止動作」を表し、その「一時停止動作」は持続性（過程）を持ったものと主張する。一方、中国語では否定副詞の“不”と新たな事態の発生・状況の変化を表すとされる文末語気助詞“了₂”を組み合わせ、「もとの計画や傾向を変えたために新たな状況が生まれた」（呂叔湘（牛島・菱沼（監訳）2003: 244）や「～しないことにする；（もう）～ではなくなる」（丸尾・李 2022: 169）という「変化」を表す中で、「やめる」に対応する機能を成立させている。すなわち、中国語では、“不～了₂”が事象の不成立への「変化」を表すことから、「やめる」が表す「一時停止動作」を中国語で描写するには、“停～”のような具体的な動作表現を用いる必要があると考えられる。以下では、本研究の主張について、南の階層モデルを援用しながら、議論していく。

先ず、(27a)で「泳ぐのをやめて」が組み込まれている従属節の階層は下の(29a)のようになる。(29a)では、「泳ぐのをやめて」が「継起」を表すB類の「ト形」による従属節の中に組み込まれている。そのため、B類従属節に組み込まれている「泳ぐのをやめて」は(22)、(23)で確認したようにA類もしくはB類従属節であると考えられる。しかし、時間修飾語の修飾状況を考えると、(29b)のように「3時頃に泳ぐのをやめて水の中でじっとしている」タイミングで「水の冷たさが体の芯にまで浸みこんでくるような気がする」と「水の中でじっとしている」とが異なる時間修飾語を取った場合は不自然な表現になる。これは、(29)のような文では、時間修飾語が「泳ぐのをやめて」のみを単独で修飾しないことを表していると考えられる。すなわち、(29)の「泳ぐのをやめて」は、時間修飾語が節の一部になれないA類従属節であることになる(cf. (25)、表2)。また、(29)では場所修飾語の「水の中で」がB類従属節の中に組み込まれているが、(29)の文において「水の中で」が「泳ぐのをやめて」だけを修飾する解釈は成立しない。このような場所修飾語の修飾状

況 (cf. (26)、表2) も、「泳ぐのをやめて」がA類従属節である論拠となり、(29)の「泳ぐのをやめて」は「主文（後続節）で表わされる動作・状態などと平行して行われる副次的動作」（南 1974, 1993）を表していると考えられる。

- (29) a. [[[泳ぐのをやめて] 水の中でじっとしていると] _(B) 水の冷たさが体の芯にまでひしひしと浸みこんでくるような気がした。]
- b. [[(3時頃に) [泳ぐのをやめて] 水の中でじっとしていると] _(B) 水の冷たさが体の芯にまでひしひしと浸みこんでくるような気がした。]
- c. ??[[(3時頃に) 泳ぐのをやめて] (3時10分頃に) 水の中でじっとしていると] _(B) 水の冷たさが体の芯にまでひしひしと浸みこんでくるような気がした。]

次に、(28a) では、「引きずるのをやめて」の前に、「五、六メートル行っては」のような「反復」を表す表現 (cf. 「～テハ」) が共起していることから、「引きずるのをやめる」という事象が、「引きずる行為を止めて、その行為の場から離れ去る」「対象の引きずる行為が以後実現しないようにする」「引きずる行為の中断」という従来記述されている機能では説明がつかないことがわかる。さらに、(28a) で「引きずるのをやめて」が組み込まれている従属節の階層は、下の (30a) のようになる。(30a) の「腰をおろし」は連用形で「継起・並列的な動作・状態」（南 1974, 1993）を表すB類従属節だと考えられ、実際に、(30b) のように場所修飾語（道の上で）によって修飾できることも、「腰をおろし」がB類従属節である論拠になる。このことから、(30a) でB類従属節に組み込まれている「引きずるのをやめて」はA類かB類従属節になるが (cf. (22)、(23)、表2)、(30c) のように「引きずるのをやめて」と「腰をおろし」が異なる場所修飾語を取る場合には、間に「その後」のような「継起」解釈を強制するような表現が無い限り不自然になる。また、実際の (28a) ではそのような別々の場所修飾語を取る解釈はできない。同様に、(30d) のように「引きずるのをやめて」と「腰をおろし」が異なる時間修飾語を取る場合も、不自然な表現になる。すなわち、場所修飾語や時間修飾語は (30) の「引きずるのをやめて」を単独では修飾せず、「引きずるのをやめて」は、(29) の「泳ぐのをやめて」と同様に「主文（後続節）で表わされる動作・状態などと平行して行われる副次的動作」を表すA類従属節だと考えられる。

- (30) a. [...[[引きずるのをやめて] 腰をおろし] _(B)、ハアハアと肩で息をします。]
- b. [...[(道の上で) [引きずるのをやめて] 腰をおろし] _(B)、ハアハアと肩で息をします。]
- c. ??[...[[(道の上で) 引きずるのをやめて] (公園の椅子のところで) 腰をおろし] _(B)、ハアハアと肩で息をします。]
- d. ??[...[[(3時頃に) 引きずるのをやめて] (3時10分頃に) 腰をおろし] _(B)、ハアハアと肩で息をします。]

(29)、(30) における議論は下の (31a) のような機能も説明できる。(31a) の「ナガラ形」は逆接を表すものではないことから、A類従属節であると考えられる。すなわち、(31a) の「漕ぐのをやめながら」は「主文（後続節）で表わされる動作・状態などと平行して行われる副次的動作」を表していることになる。(31a) の「漕ぐのをやめながら」は、(31b) のように“不～了₂”を対応させることはできず、“停止～”のような動作表現を対応させる必要がある。

- (31) a. 体の関節の剛性は、実は結構ダイナミックにコントロールしている。例えば自転車で段差を下りるときは、ほぼみんな漕ぐのをやめながら、無意識的に手首や肘・膝の関節をゆるめて衝撃に備えている。

(<https://newspicks.com/news/887127/body/> (筆者下線))

- b. 身体 関節 的 韧性 其实 是 被 相当 动态 地 控制 着 的。
 体 関節 GEN 剛性 実は COP PASS 相当 ダイナミック PRT コントロール ASP GEN
 比如 在 騎 自行車 下 台阶 时, 大家 几乎 都 会 停止 踩 脚踏板
 例えば ASP 乗る 自転車 降りる 段差 時 皆 ほとんど 全部 ADV 停止 踏む ペダル
 (*不 踩 脚踏板 了) 的 同时, 不自覺 地 放松 手腕、肘部 和 膝盖
 NEG 踏む ペダル 語気 GEN 同時 無意識 PRT リラックス 手首 肘 と 膝
 的 关节, 以 应对 冲击。
 GEN 関節 備える 対応 衝突

以上の (27)～(31) では、「やめる」が従属節の中に組み込まれて「テ形」や「ナガラ形」を取りながら「主文（後続節）で表わされる動作・状態などと平行して行われる副次的動作」を表していることを確認した。なお、A 類従属節が表す副次的動作とは、主文（後続節）の事象と平行して行われるということから、持続性（過程）を持つものであることがわかる。これらのことから、「やめる」は、従来記述されている「行為を止めて、その行為の場から離れ去る」「対象の行為が以後実現しないようにする」「行為の中断」という機能以外にも事象の経過を一時的に停止させる「動作」である「一時停止動作」を表し、その「一時停止動作」は持続性（過程）を持ったものと本研究は主張する。なお、(27)～(31) では、「やめる」の複文中での用例を確認したが、「やめる」は主文末においても「一時停止動作」を表し得ると考えられる。

下の (32a)、(33a) はインターネットで収集した用例だが、(32a)、(33a) では「やめる」が「テイルトコロダ」と共起し「動きが継続中」（益岡・田窪 1992）であることを表している。(32a)、(33a) のような表現には、“不～了₂”を直接対応させることはできず、「動きが継続中」であることを表すには、進行表現を表す“在”のような副詞と (32b)、(33b) “停止～”のような動作表現を共起させて表す必要がある。⁽⁶⁾

(32) [コントレックスという水を飲むことについて]

- a. 胃や腸の部分がずっと痛む様になり、飲むのをやめているところです。
 (https://www.askdoctors.jp/topics/451453 (筆者下線))
 b. 胃 和 腸 的 部位 变得 一直 疼痛, (所以) 我 现在 在 停止 喝 了
 胃 と 腸 GEN 部分 なる ずっと いたい それで 1 現在 ASP 停止 飲む 語気
 (*不 喝 了)。
 NEG 飲む 語気

(33) [ワイルドライスを食べるについて]

- a. 私の場合は、どうも（このワイルドライスの）繊維が多すぎるのか、お腹がガスっぽくなるので食べるのをやめているところです。 (https://bbs.jpccanada.com/log/8/5621.html (下線・括弧内筆者))
 b. 我的话, (这个 野生稻 的) 纤维 太 多 了, 因为 肚子 会 胀气,
 1-なら この ワイルドライス GEN 繊維 とても 多い 語気 なぜなら お腹 PRT 張る
 (所以) 我 现在 在 停止 吃 了 (*不 吃 了)。
 それで 1 現在 ASP 停止 食べる 語気 NEG 食べる 語気

以上、(27)～(33) では、「やめる」が“不～了₂”と対応しない用例を確認し、「やめる」が事象の経過を一時的に停止させる「動作」である「一時停止動作」を表し、その「一時停止動作」は持続性（過程）を持つことを主張した。⁽⁷⁾ すなわち、日本語では、「一時停止動作」という「動作」を表す単一形式（やめる）が、従来指摘されている一般的な中止を表す機能まで連続的に機能を分布させていることになる。一方、中国語では、「行為を止めて、その行為の場から離れ去る」「対象の行為が以後実現しないようにする」「行為の中断」のような一般的な中止を、“不～了₂”によって事象の不成立への「変化」として表し、「一時停止動作」を表

す際には他の動作表現を用いる必要がある。このような日本語と中国語の間に見られる形式と機能の対応関係における相違の傾向はどのように説明できるだろうか。次章では、日本語と中国語における他の表現様式の傾向を概観しながら、形式と機能の対応関係における相違の傾向について論じる。

4. 日本語と中国語の表現様式と言語の視点

井上（2002）は、言語の対照研究を下の（34）のように大きく二つのタイプに分けている。井上（2002）は言語教育における二つのタイプの対照研究の意義について、「対応記述型」の研究で明らかにされる言語間の類似と相違に関する情報は、学習者が第二言語を習得する上での阻害要因と促進要因を考えたり、誤用の背景や教学上のポイントを考えたりする際の参考情報になると主張している。また、「類型設定型」の研究においては、言語教育で重要になる「それぞれの言語を支える基本的な発想を理解し、それぞれの言語に見られる種々のことがらをそれと関連づけて有機的に理解する」（井上2002: 10）ための観点を提供できると主張している。

- （34） I 「二つの言語の類似と相違を共通の枠組みのもとで整理して記述する」ことに重点を置く＜対応記述型＞の対照研究。
 II 「二言語間の類似と相違の背景にある一般的な原理や傾向性について考える」ことに重点を置く＜類型設定型＞の対照研究。
 （井上2002: 3）

前章では、日本語の「やめる」という単一形式が「一時停止動作」から、一般的な中止を表す機能まで連続的に機能を分布させているのに対し、中国語では「一時停止動作」と一般的な中止を表す際に、表現形式を使い分ける必要があることを指摘した。本章では、このような現象を他の日本語と中国語表現に見られる特徴と関連づけて、すなわち、「類型設定型」の観点から考察する。

木村（2014）はテンスの有無という日本語と中国語の間に存在する相違点に言及しながら、両言語の母語話者による「慣習的な視点の取り方」の類型として下の（35）の特徴を挙げている。

- （35） 現実を言語化する際に常に＜いま＞に縛られる日本語は、空間認知や事態認知において現場立脚的もしくは当事者的な視点を志向する。一方、現実を言語化する際に＜いま＞に縛られない中国語は、空間認知や事態認知において俯瞰的もしくは傍観者的な視点を志向する。
 （木村2014: 117）

（35）の類型の論拠として、木村（2014）は「地名」「受動構文の主語選択」「建物の中での事物の描写」「道案内の表現」「時間表現の使用傾向」などを例に挙げている。^⑧紙幅の都合上、個々の例を細かく確認することはできないが、木村（2014）は「東大赤門前」「金閣寺前」「中央図書館前」「箱崎九大前」などのバス停や駅名を例に挙げながら、これらの名称には、日本語話者の現場立脚型の視点が関係していると主張している。具体的には、「東大赤門前」のような命名には、乗降客の視点から見た「赤門」とその前にある「停留所」の関係を捉える現場立脚型の視点が反映されていると木村（2014）は分析している。一方、中国語における「人民大学」の前にあるバス停や「国家図書館」の前にある地下鉄駅の名称は、「～前」のような“人民大学前（辺）”、“国家图书馆前（辺）”ではなく、“人民大学”、“国家图书馆”である。この現象について、木村（2014）は、中国語の命名は、「人民大学」のような場所に隣接するバス停や地下鉄であっても、より大きな括りで捉え、より際立ちの高い物の一部分として取り込もうとする俯瞰的視点に動機づけられたものだと分析している。

木村（2014）は、他にも（36）のような例も挙げている。木村（2014）によると、日本語を含め多くの言語では、自分が当事者として引き起こした事態は、自分を主語に立て、わが事として表現するのが慣習的であるという。しかし、そのような状況においても、中国語では、（36）のように、“我（私）”において起こった（起こした）事態とは捉えず、“面包（パン）”において起こった事態として捉えることができる。（36）

のような、中国語における受動構文の主語の選択において、わが事をわが事として捉えない中国語話者の傍観者の視点が関係していると木村 (2014) は分析している。一方で、(37) の迷惑受け身とも呼ばれる間接受動構文は中国語には存在しない。日本語と中国語における間接受動構文の有無についても、木村 (2014) は、客観的にはひと事である事態を話し手もしくは話し手が共感を寄せる人物にとってのわが事として捉える日本語の当事者の視点が関係していると分析している。

- (36) 面包 被 我 烤糊 了。
パン PASS 1 焦げる ASP
「パンは私に焦がされた。」

(ibid: 113 (筆者グロス))

- (37) 私は徳田さんに四日続けて休まれた。

(ibid: 114)

木村 (2014) は、さらに (38) のような例についても分析している。雪が既に降っており、降り続ける様子を見た場合、日本語話者は (38a) のように、「テイル形」を用いて「動きが継続中」であるように捉える。一方、中国語話者は (38b) のように、文末語気助詞“了₂”を用いて、「変化」として捉える。

- (38) a. 雪が降っている。
b. 下 雪 了。
降る 雪 語気
「雪になった。」

(ibid: 97-98 (筆者グロス))

このような (38) の事態認知に関わる表現と上で確認した「慣習的な視点の取り方」が関わるとされる日本語と中国語の表現を関連づけて、木村 (2014) は下のように述べている。

- (39) 中国語話者は、非降雪と降雪という二つの異なる事態をそれぞれ丸ごと総括的 (summary) に捉え、その二つをともに射程に収めつつ、一方から一方への<変化>として現実を捉えている。それに対して、日本語話者は、降雪という一つの事態が生起する現場にわが身を置き、事態の経過を順次的 (sequential) に体感し、あるいは観察している。明らかに前者の方が後者よりも視野が広く、巨視的もしくは俯瞰的であると言える。

(ibid: 112)

本研究は、「やめる」という単一形式が「一時停止動作」から、一般的な中止を表す機能まで連続的に機能を分布させているのに対し、中国語では「一時停止動作」と一般的な中止を表す際に、表現形式を使い分ける必要があることを指摘した。本研究は、このような形式と機能の対応関係に異なる傾向が見られるのも木村 (2014) が指摘する (35)、(39) の視点の違いが関係していると主張する。すなわち、日本語では、当事者現場立脚型視点によって事態の経過を順次的 (sequential) に体感・観察することから、「やめる」が「一時停止動作」から「行為を止めて、その行為の場から離れ去る」「対象の行為が以後実現しないようにする」「行為の中断」まで連続して、事態 (動作) の経過と並行的に機能を広く分布させている。一方、傍観者俯瞰型視点を取る中国語では、事態をそれぞれ丸ごと総括的 (summary) に捉えることから、一般的な中止を表す場合は、否定副詞の“不”と文末語気助詞“了₂”を組み合わせ、非中止から中止への「変化」として表す。さらに、「一時停止動作」のような動作場面を表す場合には、傍観者俯瞰型視点で、「一時停止動作」場面として切り取り“停～”のような具体的な動作表現を用いることになる」と分析する。

5. 結語

本研究では、「やめる」に対応する中国語表現と南の従属節の階層モデルを手掛かりに、「やめる」の機能について論じた。本研究は、「やめる」が、従来記述されている「行為を止めて、その行為の場から離れ去る」「対象の行為が以後実現しないようにする」「行為の中断」という機能以外にも事象の経過を一時的に停止させる「動作」である「一時停止動作」を表し、その「一時停止動作」は持続性（過程）を持ったものであることを論じた。そして、「やめる」という単一形式が「一時停止動作」から、一般的な中止を表す機能まで連続的に機能を分布させていることを指摘した。一方、中国語では、“不～了₂”によって事象の不成立への「変化」を表す中で、一般的な中止を表す「やめる」に対応する機能を成立させている。しかし、「一時停止動作」を表す際には他の動作表現を用いる必要があることを明らかにした。本研究では、日本語と中国語において形式と意味機能の対応関係にそのような異なる傾向が見られる要因は、木村（2014）が指摘している「慣習的な視点の取り方」の違い（「当事者現場立脚型視点」（日本語）vs.「傍観者俯瞰型視点」（中国語））が関係していることを主張した。本研究の研究結果は、「やめる」の新たな機能の記述の他に、従来の木村（2014）が行っている「類型設定型」の日本語と中国語の対照研究へ更なるデータを提供した。今後も、日本語と中国語の「類型設定型」の研究を進めていくことによって、「それぞれの言語を支える基本的な発想を理解し、それぞれの言語に見られる種々のことがらをそれと関連づけて有機的に理解する」（井上2002: 10）のための手掛かりを提供することができるようになり、将来的に個別言語が持つ特徴・傾向性を反映させた教授法・教材開発など、言語教育分野への応用が可能になると考えられる。

謝辞

本稿の執筆にあたっては、2名の匿名査読者の先生方より多くの有益なご指摘とご助言を賜った。ここに記して深く感謝申し上げる。

注

- (1) 本研究の例文で出典が無いものは、筆者の作例である。中国語の用例確認、作例については、2名の中国語母語話者（中華人民共和国遼寧省出身：30代女性、中華人民共和国四川省出身：20代女性）に依頼した。
- (2) 本研究で扱うグロスの略語一覧：ADV=adverbial, ASP=aspect, BA=ba construction, COP=copula, DIR=directive, GEN=genitive, LOC=locative, NEG=negation, PRT=particle, PASS=passive, PL=plural, 1=first person, 2=second person, 3=third person, 語気=文末語気助詞（新たな事態の発生・状況の変化を表すもので、動詞の直後に生起するアスペクト助詞“了₁”とは区別される（丸尾2010など））。
- (3) 本研究では「*」は非文、「??」は極めて不自然な表現であることを表す。
- (4) 本論文では、議論に必要な構成要素間の制約のみを確認した。他の構成要素を含めた議論は、南（1974, 1993）を参照されたい。
- (5) 「原文阅读 || 一个圣诞节的回忆」では、(28a) に対応する箇所を、“像拖一头死去的猎物。每走几码我们就放弃挣扎，坐下来大口喘气。”のように表現しているが、このような文でも下線部を“不～了₂”と置き換えることはできない。
- (6) 「ナガラ」(31)、「テイルトコロダ」(32)、(33) と共起している「やめる」は結果の保存が主体的に行われる局面であり、「動き」と「結果」の中間的なものであるとされる「維持」（森山 1988）を表している可能性がある。しかし、動詞が「維持」を表す場合、単一動詞が、維持する結果の成立に至る「動き」とその後の「維持」の両局面を表すことが知られている。さらに、「動き」と「維持」の両局面の動作主は異なってもよいという特徴が岩本（2015）などで指摘されている。(31)～(33) の「やめる」においては、「動き」と「維持」の動作主が異なることは考えにくく、(31)～(33) の「やめる」は「一時停止動作」を表しているものとし、「一時停止動作」と「維持」の連続性については機会を改めて論じ

たい。

- (7) 例文 (3) で確認したように、森田 (1977) は「やめる」が「終える」のような完了意識を表さないことを指摘しており、森田の指摘は、解釈によっては「やめる」が一時停止を表すことを含意し得る (査読者のご指摘による)。しかし、森田 (1977) の議論において、「一時停止」という用語は明示的に使われていない。さらに、「やめる」が表す一時停止が持続性 (過程) を持った「一時停止動作」であることは論じられていない。
- (8) 木村 (2014) は、「建物の中での事物の描写」「道案内の表現」において、中国語話者は傍観者俯瞰型の絶対空間詞 (e.g. 西、北) を使用する傾向が日本語話者より強いことを指摘している。しかし、絶対空間詞の使用においては、中国語話者間でも方言差などの影響も大きい (査読者のご指摘による)。

参考文献

- 井上優 (2002) 「「言語の対照研究」の役割と意義」国立国語研究所 (著) 『日本語と外国語との対照研究 X 対照研究と日本語教育』 3-20. 東京: くろしお出版.
- 井上優 (2015) 「対照研究について考えておくべきこと」『一橋日本語教育研究』 3: 1-12.
- 岩本遠億 (2015) 「アスペクトと事象構造の変更—結果持続の類型論に向けて—」由本陽子・小野尚之 (編) 『語彙意味論の新たな可能性を探って』 184-212. 東京: 開拓社.
- 木村英樹 (2014) 「こと・ところ・ことば—現実をことばにする「視点」」唐沢かおり・林徹 (編) 『人文知 1 心と言葉の迷宮』 97-118. 東京: 東京大学出版会.
- 北原保雄 (2010) 『明鏡国語辞典 第二版 (電子辞書版)』 東京: 大修館書店.
- 刘月华・潘文娛・故韡 (1996) 相原茂 (監訳) 『現代中国文法総覧』 東京: くろしお出版.
- 呂叔湘 (2003) 牛島徳次・菱沼透 (監訳) 『中国語文法用例辞典—《現代漢語八百詞増訂本》日本語版』 東京: 東方書店.
- 丸尾誠 (2010) 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』 東京: アスク出版.
- 丸尾誠・李軼倫 (2022) 『これならわかる中国語文法 入門から上級まで』 東京: NHK 出版.
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法—改訂版—』 東京: くろしお出版.
- 南不二男 (1974) 『現代日本語の構造』 東京: 大修館書店.
- 南不二男 (1993) 『現代日本語文法の輪郭』 東京: 大修館書店.
- 森田良行 (1977) 『基礎日本語—意味と使い方』 東京: 角川書店.
- 森山卓郎 (1988) 『日本語動詞述語文の研究』 東京: 明治書院.
- 日本語記述文法研究会 (2008) 『現代日本語文法 6 第 11 部 複文』 東京: くろしお出版.
- 杉本武 (1986) 「やめる・よす・おえる」『日本語研究』 8: 32-39.
- 山田進 (1979) 「トメル・ヤメル・ヨス・オワル (オエル)」柴田武・國廣哲彌・長嶋善郎・山田進・浅野百合子 (著) 『ことばの意味 2 辞書に書いてないこと』 148-155. 東京: 平凡社.
- 王灿龙 (2012) 「再论“没 (有)”与“了”共现的问题——“没下雨了”与“不下雨了”之比较分析」『汉语学习』 1: 15-24.

用例出典

- 「AskDoctors」 <https://www.askdoctors.jp/topics/451453> [2025 年 9 月アクセス]
- 「jpcanada.com」 <https://bbs.jpcanada.com/log/8/5621.html> [2025 年 12 月アクセス]
- 村上春樹 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』 CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊.
- 村上春樹 (林少华 (译)) 『世界尽头与冷酷仙境』 上海: 上海译文出版社.
- 「NEWS PICKS」 <https://newspicks.com/news/887127/body/> [2025 年 9 月アクセス]
- 人民教育出版社・光村图书出版株式会社 (編) 『新版中日交流标准日本語 初级』 北京: 人民教育出版社.

トルーマン・カポーティ『クリスマスの思い出』CD-ROM版 新潮文庫の100冊.

「杜鲁门・卡波特：一个圣诞节的回忆」https://www.sohu.com/a/212634330_771944 [2025年9月アクセス]

「原文阅读 || 一个圣诞节的回忆」https://www.sohu.com/a/212900445_823297 [2025年9月アクセス]